

# 「羽曳野市財政健全化計画取組項目実施工程表 (平成23年度改訂版)」(案) を策定しました

## ■今後の財政状況

市の財政は、市民の皆様のご理解のほか、財政健全化に向けた継続的な取り組みなどの結果、平成22年度一般会計決算（実質収支）は6億4,959万円と、前年度に引き続いて黒字となりました。

しかし、景気低迷による市税収入の減少、少子高齢化の進展等による福祉関係費や緊急を要する学校施設の耐震化工事費の増加など、今後、財政収支の均衡を図ることが困難となる要素を多く抱えています。

そして、財政健全化に取り組まなければ、平成24年度には赤字財政に転落し、以降、好転は望めず、赤字額が累積していくものと予想しています。

## ■実施工程表（平成23年度改訂版）策定の必要性

平成23年度当初予算をベースに、一定の条件のもとに平成23年度から25年度までの財政収支見通しを立てました。（下表参照）

それによると、今後、財政健全化に取り組まなければ、平成24年度に実質収支が約9億円の赤字財政に陥り、翌25年度には赤字額が約21億円に累積する見通しです。

そのため、財政収支の均衡に向けて、改めて達成すべき目標を示した「財政健全化計画取組項目実施工程表（平成23年度改訂版）」(案) を策定しました。

## 中期財政収支見通し（普通会計）

○健全化取組前（H21・H22は決算値） （単位：億円／▲は負数(=赤字)を表す。）

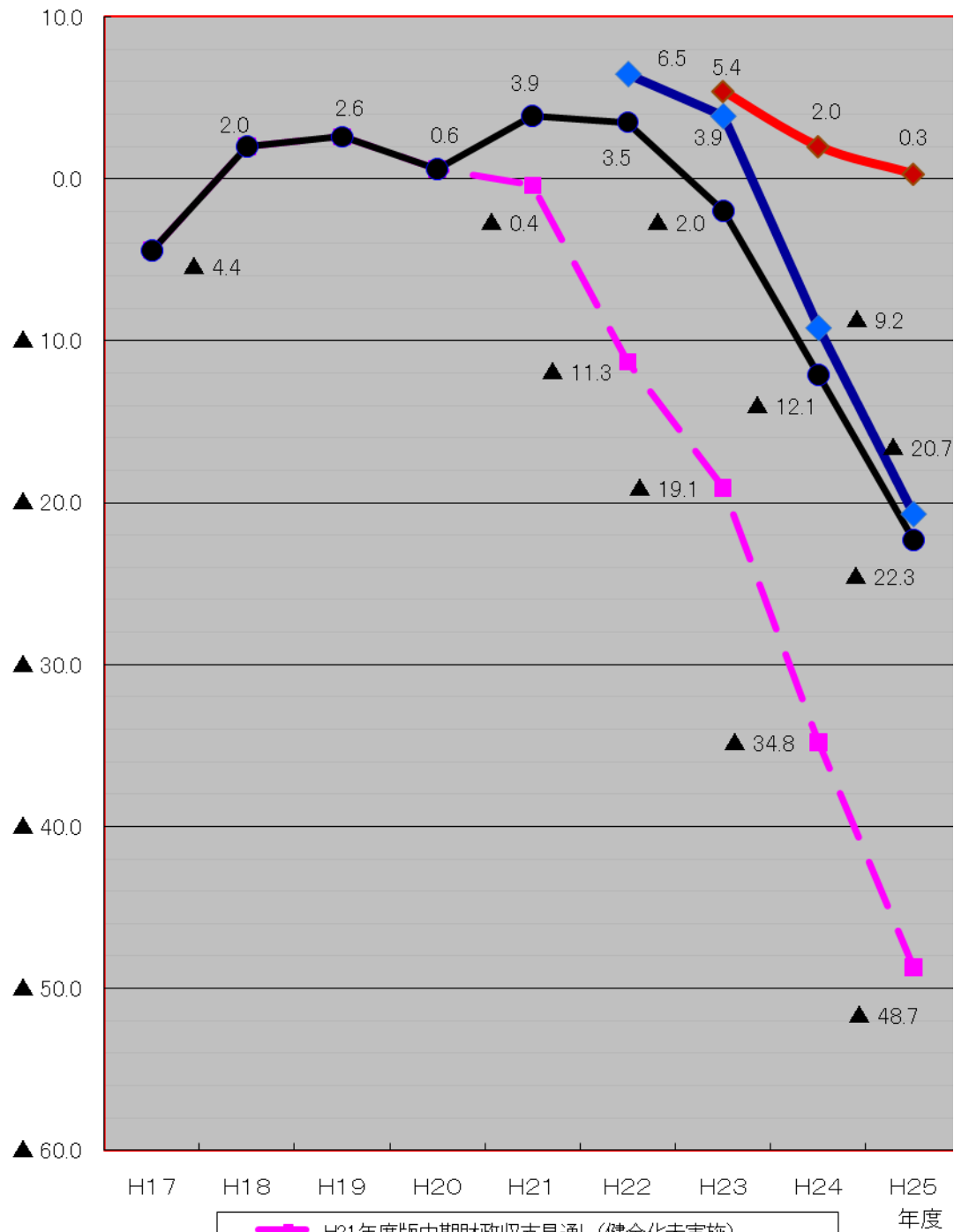
	H21	H22	H23	H24	H25
歳入（A）	364.1	404.0	380.1	378.9	378.7
歳出（B）	359.6	396.8	376.2	388.1	399.4
歳入歳出差引額（C）=（A）－（B）	4.5	7.2	3.9	▲9.2	▲20.7
翌年度へ繰越すべき財源（D）	0.6	0.7	0	0	0
実質収支（累積赤字）（E）=（C）－（D）	3.9	6.5	3.9	▲9.2	▲20.7
単年度収支（F）=〔（E）－前年度（E）〕	3.3	2.6	▲2.6	▲13.1	▲11.5

○財政健全化目標（H21・H22は決算値） （単位：億円）

	H21	H22	H23	H24	H25
財政健全化目標効果額（G）	－	－	1.5	9.7	9.8
目標達成した場合の収支見通し（H） （H）=前年度（H）+（F）+（G）	3.9	6.5	5.4	2.0	0.3

単位：億円

### 累積収支の推移



- H21年度版中期財政収支見通し(健全化未実施)
- H22年度版中期財政収支見通し(H22以降健全化未実施)
- ◆— H23年度版中期財政収支見通し(H23以降健全化未実施)
- ◇— 累積収支(健全化目標)

## 実施工程表（平成23年度改訂版）」（案）の概要

### ■目標額21億円の達成に向けて、さらなる財政健全化を

今回の「実施工程表（平成23年度改訂版）」（案）は、平成21年度に策定した財政健全化計画における具体的な取組項目を定めた実施工程表を基に、これまで「研究」・「検討」としていた取組項目の具体化や取り組みの進展による効果額の修正、さらに新たな取組項目の追加などの見直しを行ったものです。

この実施工程表に掲げる各項目の中には、現時点において、効果額を算出できないものがありますが、平成25年度の累積赤字解消相当額として定めた「目標効果額21億円」に対し、約12億円の計上にとどまっています。

今後、「研究」・「検討」とした項目の具体化と、不断の見直しによる新たな取組項目の追加により、効果額の上積みを図り、目標額の達成を目指します。

なお、この実施工程表は、毎年見直すこととし、その見直しの状況を市民の皆様にご公表するなど徹底した進行管理と情報開示を行い、財政健全化の実現につなげていきます。

### ■取組項目と効果額（予定） ※効果額は平成23年度から25年度までの合計額です。

<歳出面>

取組項目	効果額（予定）
人件費の削減	3億2百万円
物件費等の削減	7千6百万円
特別会計繰出金の削減	—
一部事務組合負担金の削減	1千3百万円
外郭団体等助成金の削減	6百万円
市単独扶助制度の見直し	1百万円
その他単独事業の見直し	—
補助金・負担金の見直し	—
施設の統廃合	9百万円
建設事業費の見直し	—
合計	4億7百万円

<歳入面>

取組項目	効果額（予定）
市税等の徴収率の向上等	3億9百万円
受益者の適正な負担	1百万円
市所有地の有効活用	—
その他の収入の追及	5億1千8百万円
合計	8億2千8百万円

今後とも市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。